

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度 技術情報第25号（バレイシヨの疫病）について（送付）

バレイシヨの疫病について、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。



## 令和7年度 技術情報第25号

沖永良部島でバレイシヨの疫病の初発を確認しました。降雨等で急激に発生の拡大が懸念されるため、下記5の防除対策を徹底してください。

- 1 対象病害虫 疫病
- 2 対象作物 バレイシヨ
- 3 発生地域および発生量  
奄美地域 並  
熊毛地域 やや少

### 4 発生状況及び情報の根拠

- (1) 12月中旬の調査で奄美地域では発生ほ場率は17%（平年12%）と平年並み（図1）、熊毛地域（西之表市）では発生を認めなかった（図2）。
- (2) 発生ほ場では、下記5を参考に防除を行う。また、両地域とも例年1月から2月にかけて発生が多くなることから（図1、2）、発生前の予防が重要である。

### 5 防除上注意すべき事項

葉での病徴は、下葉に暗緑色の斑点を生じて次第に拡大し（図3）、葉裏面の健全部に接して霜のようなかびを生ずる。収穫期に雨が多いと菌が塊茎（イモ）に侵入し、感染した塊茎は腐敗する。原因菌は降雨で胞子が飛散し、感染は数時間で完了する。好条件下では数日で感染・発病を繰り返し、急激にほ場全体にまん延するので、以下の防除対策に努める。

- (1) すでに発生しているほ場では、表1を参考に、BまたはDグループの農薬を直ちに散布する。雨が続くと予想される場合には5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。
- (2) 未発生ほ場では、Aグループの農薬を発生前に必ず散布し、予防に努めることが重要である。その後は2週間間隔で散布する（図4、表1）。
- (3) 排水の悪いほ場では多発しやすいので、排水対策を十分に行う。
- (4) 収穫残さは次作の伝染源となるため、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

### 6 参考データ

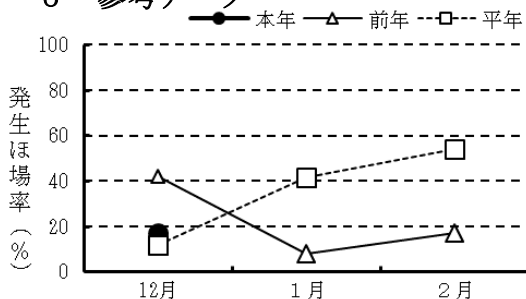


図1 疫病の発生ほ場率の推移（奄美地域）

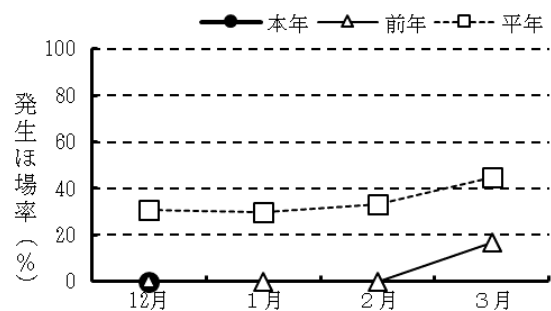


図2 疫病の発生ほ場率の推移（熊毛地域）



図3 バレイショでの疫病の病徴

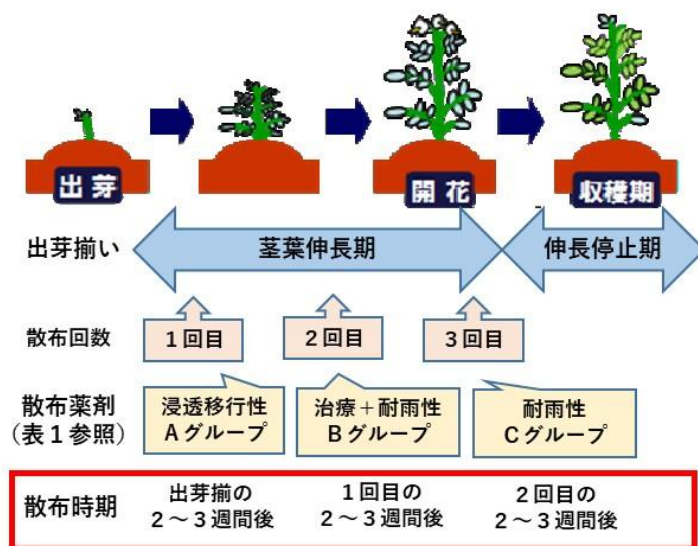


図4 疫病の防除体系 (例)

表1 疫病防除体系の農薬

令和7年12月24日現在

グループ	散布時期	特徴	主な農薬名
Aグループ	茎葉伸長期	散布部位から浸透し、未付着部位へも成分が移行する農薬	ゾーベックエンカンティアSE ゾーベックエンテクタSE フォリオゴールド リドミルゴールドMZ
Bグループ	茎葉伸長期～伸長停止期 (発生初期)	長期残効が期待できる治療効果と耐雨性を兼ね備えている農薬	カンパネラ/ベネセット水和剤 ザンプロDMフロアブル ダイナモ顆粒水和剤 ブリザード水和剤 プロポーズ顆粒水和剤 ホライズンドライフロアブル リライアブルフロアブル
Cグループ	伸長停止期～収穫前	仕上げ剤として長期残効が期待できる耐雨性が高い農薬	エトフィンフロアブル ジマンダイセン水和剤 ダコニール1000 フロンサイドSC ライメイフロアブル ランマンフロアブル レーバスフロアブル
Dグループ	例年よりも降雨が多いなどの天候不順時で、上記防除体系で疫病の発生を抑制できない場合に追加的に使用する治療効果の高い農薬		エキナイン顆粒水和剤 ベトファイター顆粒水和剤

※下線付きの農薬は、無人航空機による散布可能